

# 特集：子どもの文学の一年

## ★ 総論

### 二〇一一年を振り返って

ひこ・田中

はじめに

二〇一一年は今後、震災と原発事故の起こった年として記憶されます。

すでに、『春を待つ里山』（会田法行文 山口明夏写真 ポプラ社）や『あの日』のこと』（高橋邦典 ポプラ社）といった、今でないと記録できない言葉と写真の、優れた作品が

刊行されていますが、創作の出現はもう少し先となるでしょう。

震災後私は、いくつかの短い言葉を書きました。YAに向けては、二〇一一年三月一日一四時四六分、後に東日本大震災と名付けられた地震が起りました。（中略）落ち着けとは言いません。がんばれ！なんて言いたくありません。そんなの無理です。（中略）自分の考えや物の見方、つまり視野が、以前より広がってしまったと感じている人は結構いると思います。普段ならゆっくり進むはずの変化が、この出来事で速くなってしまったのです。だからあなたには少し加重がかかりすぎている可能性があります。あせらず、走り終えたアスリートのように徐々に慣れていってください」（「YAの世界」読売新聞）。

これは今後出てくる震災を巡る作品における子どもたちの描き方に関しても願うことです。

以下の言葉も書きました。

今後、「この国の子どもの物語は、震災前に知っていた現実より幅の広い現実、たとえば『鋼の錬金術師』のバト